

令和6年度第1回いじめ問題対策連絡協議会における主な意見とその対応(要旨)(R6.5.29)

No.	意見		回答・対応等
1	山田委員	啓発を実施する時期は、運動会前や受験前など、子どもや親が疲れてイライラしそうな時期にしてはどうか。	意見のみ
2	芳村委員	SNSのことについて、子どもたちは授業で話を聞いているが、保護者も、その時間内で同じ内容の話をシェアして聞いてもらった方がいいのではないか。	意見のみ
3	國友会長	グループLINEで、気づかないうちに自分が外されてグループを作られていて、いじめられた本人も気づいてないところで仲間外れが起きている。親も学校の先生もなかなか把握が難しいので、より丁寧にしていかなければならない。	意見のみ
4	竹内副会長	人権・男女共生課では差別に関する書き込みについて、インターネットモニタリングというものを行っており、その都度、削除申請などを行っている。インターネットに1回出してしまうと、なかなか消えず、被害者加害者とともに、ずっと残ってしまうところを、もう少し強めにお伝えしたほうが良いと思う。	意見のみ
5	山下委員	警察に持ち込まれるいじめでは、保護者がなかなか子どもを連れてきてくれないというケースもある。皆さんの協力をいただいて解決したいという思いはあるので、情報をいただけたらと思う。	意見のみ
6	岩本委員	いじめの件数が、小学校で1,500件超とのことだが、その後先生方も入って、二者面談をされたりして、解決しているケースはどのくらいあるのか。どのような状況なのか。	解消しているものは小学校で901件、中学校では65件。解消に向けて取り組み中というものは、いじめを認知してから3ヶ月以上経過しているものが小学校で101件、中学校で27件。認知してから3ヶ月経過していないものは、小学校は384件、中学校が16件である。
7	横田委員	アンケートでは書けない子どももいる。岩園小学校では、今年からアンケートを取った後、1年生から6年生まで全員に聞き取りをしていこうと考えている。	意見のみ
8	河野委員	今年、山手中学校ではアンケートの見直しを行おうと思っている。すぐ書いて出せるような書きやすいものに変えていこうと検討を始めている。また、アンケートに関しては件数だけでなく、状況分析や傾向などもわかるようなものができればと考えている。	意見のみ
9	浅田委員	多様な考え方があって難しくなった時代だからこそ、学校だけでなく、地域、保護者、連携し合って育てていくのかというところの部分を、何かPRできるような、何か投げかけるものが必要になってくると感じた。	意見のみ
10	事務局茶嶋参事	昨年度よりいじめの件数が減少しているとのことだが、減っていることへの分析はされているのか。	令和5年、4年、3年と3年間見ていくと、減っている傾向があるというところまではわかっているが、どうして減っているのかというところまで分析できていない。